

水とともに

冬号



特集 水資源機構60年記念

次代をつくる私たちの誓い

～水のプロ集団としての誇りとあるべき将来を語る～

(金尾理事長と若手職員との座談会)



CONTENTS

- 02 巻頭言 新年のご挨拶
独立行政法人水資源機構
理事長 金尾 健司
- 04 特集 水資源機構60年記念
次代をつくる私たちの誓い
～水のプロ集団としての誇りとあるべき将来を語る～
- 10 トピックス
私たちも歴史の生き証人
- 12 トピックス
利根川と霞ヶ浦に囲まれた輪中地帯を守る
- 16 トピックス
布目ダム管理30年を迎えて
～この先もずっと 地域に親しみ愛される
「まほろば」ダムを目指して～
- 18 連載 気象キャスターが解説! 天気のカタ
第31回 群馬の冬 ～豪雪とからっ風～
気象キャスターネットワーク 新村 美里
- 20 シリーズ
第1回 未来の水のプロにつなぐ
～インターンシップ参加者の声～
- 22 水機構ニュース
- 24 モニター様の声・施設紹介・編集後記

新年のご挨拶



独立行政法人
水資源機構
理事長
かな お けん じ
金尾 健司

明けましておめでとうございます。
新型コロナウイルスという見えない相
手に振り回される日常が長く続いており

ますが、水資源機構は、国民生活や社会
経済活動に欠かせない水の安定供給と洪
水から国民の生命と財産を守るといふ重
要な使命を担う組織として、業務に支障
を来さぬよう万全の体制で感染防止に努
めてきたところです。

さて、昨年も気候変動の影響による異
常気象は世界中で甚大な災害をもたらし
ました。パキスタンでは国土の3分の1
が水没する大洪水に襲われ、中国では歴
史的な干ばつ被害、米国やカナダ、欧州

などでも異常な高温が続き、世界同時多
発的な干ばつによる農作物等への甚大な
被害が発生しています。わが国でも、昨
年6月から記録的な高温が続き水不足が
心配されました。四国の吉野川水系の銅
山川では、自主節水の開始から取水制限
解除までの期間が298日間と過去最長
を記録したほか、関西の猪名川では2
シーズン続けての冬季渇水となりました。
こうした地域を始め、水資源機構
では、関係者の皆様との連携により最適

な利水運用ときめ細やかな操作に努め、
安定的な水供給という重要な役割を果た
してきました。一方、7月から8月中旬
にかけては、各地で記録的な降水量を観
測する大雨に見舞われました。機構管理
のダムでは昨年33回の洪水調節を実施
し、下流地域を洪水被害から守るための
確な防災操作に努めました。

水資源開発施設の建設・改築について
は、淀川水系の川上ダムが令和5年度に
管理へ移行する予定であり、利根川水系
の思川開発事業では、南摩ダムや導水路
等の建設が最盛期を迎えています。また、
吉野川水系の治水機能の強化を目的とし
た早明浦ダム再生事業では工事着手に向
けた準備に入っているほか、各地の施設
で治水機能の強化や耐震化、堆積してい
る土砂問題への取り組みを進めていま
す。また、水路等事業では、木曾川水系
において木曾川用水濃尾第二施設改築が
令和4年4月に新たに着手、愛知用水三
好支線水路緊急対策は計画どおり令和4
年度に、利根大堰の耐震補強等を行う利

根導水路大規模地震対策は令和5年度
に、それぞれ完了する見込みです。

最近の情勢として、気候変動に対応し
た治水機能の確保・向上や、カーボン
ニュートラル(水力発電)、地域振興といっ
た社会的要請に対して、国がハイブリッ
ドダム構想を打ち出すなど、ダムの役割
強化が求められています。それには、事
前放流や発電強化のための貯水池運用な
ど、ダム操作の高度化が必要です。機構
では数年前から京都大学、日本気象協会
と共同で、アンサンブル降雨予測を活用
したダム操作の高度化に関する研究にも
取り組んでいます。そして、成果の挙がっ
たものから順次、現場への実装を進めて
いるところです。また、DXにもいち早く
取り組みを始めました。例えば、タブレッ
ト端末を携行して現場での巡視・点検を
合理化する水路管理支援システムを全て
の現場で運用するなど、業務の効率化・
高度化や働き方改革の実現に向けて継続
的にチャレンジしているところです。

前身の水資源開発公団の設立から60

年、近年の気候変動による渇水や異常洪
水などの気象災害リスクの高まりととも
に、当機構が果たす責任や期待は益々大
きくなっています。水資源機構は、水源
から水路ネットワークまでを一体的に広
域的に管理しているわが国唯一の組織で
す。将来に向けての担い手の確保ととも
に、そのためのノウハウ、技術を有した
「水のプロ集団」としての研鑽を重ね、
引き続き水資源開発施設の適切な管理・
建設に務めてまいります。本年が皆様にと
って良き一年となりますことを祈念し
つつ、併せて皆様のご支援ご協力をお願
いいたします。

※降雨予測に伴う不確さを考慮することで将来の予測を可能にする手法

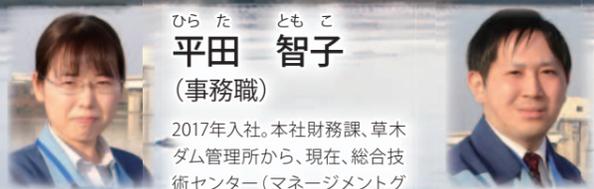


次代をつくる私たちの誓い

水のプロ集団としての誇りと

あるべき将来を語る

場所：利根導水総合事業所(利根大堰・右岸取水口)



おかむら こうじ
岡村 幸治
(事務職)

2018年入社。千葉用水総合管理所で用地業務を経験して、現在、本社人事課の任用班で採用・人事異動を担当。

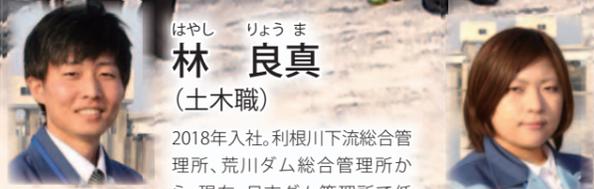
趣味：読書、スノボ



すずき よしひこ
鈴木 良彦
(機械職)

2020年入社。長良川河口堰管理所から、現在、総合技術センター(施工監理グループ)で外部受託の積算業務を担当。

趣味：映画鑑賞、読書



てら お たつ や
寺尾 達也
(電気通信職)

2018年入社。布目ダム管理所から、現在、見沼管理所で見沼代用水の電気設備における工事発注や点検業務を担当。

趣味：釣り、乗馬



たむら かなこ
田村 嘉奈子
(土木職)

2020年入社。利根導水総合事業所に配属された後、現在、霞ヶ浦用水管理所で配水管理、安全協議会、工務事務を担当。

趣味：読書、散歩



はやし りょうま
林 良真
(土木職)

2018年入社。利根川下流総合管理所、荒川ダム総合管理所から、現在、日吉ダム管理所で低水・高水管理、防災業務を担当。

趣味：スポーツ、食べる



独立行政法人 水資源機構
理事長

かなお けんじ
金尾 健司



理事長 今日、機構60年記念企画として、前身の水資源開発公社の設立当初に実施した歴史的プロジェクト、利根導水路事業で建設した利根大堰のほとりのロケーションの良い場所に皆さんが集まっていたいただきました。水資源機構はこれから100年、150年と将来にわたって水のインフラ組織として社会生活の安定を担っていきます。水資源機構の将来を背負って立つてもらおう若手職員の皆さんから忌憚のない意見を聞けることを楽しみにしております。ぜひ、肩の力を抜いてリラックスして臨んでください。

水資源機構に入社しての感想

司会 水資源機構を就職先に選んだ理由を皆さんにうかがいますと、「社会生活に不可欠な水インフラを扱う重要性の高い仕事へのやりがい」といった趣旨の回答が多かったのですが、そういう思いをもって入社後、数年経った皆さんから、今の率直な感想をお聞かせください。

平田 異動で職員の入れ替わりが多いなあという印象です。すぐに離ればなれになると思うと一期一会的な考え方になりましたね。ただ、新しい職場で知っている人とまた一緒になれたときは嬉しかったです。

林 僕は大学時代に純粋な土木を専攻していませんでしたが、入社してみても、土木職は土木業務以外にも予算、防災、危機管理、環境、広報など幅広い分野を経験できる職種だなあと感じますね。

鈴木 私も林さんと同じで仕事幅が広いなあと思いました。機械だけでもゲートやポンプだけでなく、係船設備や曝気設備(水質保全施設)など様々な付属設備があって、こうした機械だけでなく土木や環境業務に携わるなど様々な知識に触れられるのは楽しいですね。

田村 私が担当している配水管理は県や市町村、土地改良区など関係各所と一緒に仕事をすることが多くて調整する力が大切だと思っています。特に、かんがい期の配水は土地改良区さんとの連携が非常に密接で責任を感じますが、上手く調整できたときは嬉しいですし、すぐぐやりがいを感じます。

寺尾 電気設備も仕事の幅が広いの



で、入社前にどのくらいの電気設備を扱うのか具体的なイメージがあまりなかったのですが、入社してみてもこんなに多くの電気設備を扱うのかというのが率直な感想です。

岡村 私が機構を選択した理由は、機構は水を使う国民全体に対して仕事をするという視野の広さがあり、大きな社会的貢献ができると思いの志望しました。入社してみても心に余裕がある職員が多いという印象がありますね。

理事長 皆さんが機構を志望した理由が、社会生活に不可欠な水インフラを扱う重要性の高い仕事へのやりがいという回答が多かったことは非常に嬉しい限りです。確かに、機構の仕事は幅広いです。自分はこれだけは絶対に負けないう得意分野を今後、ぜひ見つけてください。また、これからのいろいろな人と出会う機会があるかと思いますが、人と関わるのを嫌がらずに(笑)、業務を行っていただければと思います。

現在の職場環境と仕事のやりがい

司会 職場の雰囲気やワークライフバランスなど、今の職場環境を教えてください。

岡村 メリハリができていて、明るい職場環境という印象です。仕事に集中するときは集中し、雑談を交わしながら和気あいあいとし



た良い雰囲気です。現場にいるときは、本社の仕事は閉鎖的な印象がりましたが実際は違いましたね(笑)。

寺尾 職場の雰囲気は私も大事だと思います。見沼管理所は出先事務所、一人でできる仕事は少なく、土木職、電気通信職、機械職が連携して一緒に仕事を進めていくことが多いので、普段から職員間のコミュニケーションは大切にしています。

林 日吉ダムは比較的若手職員が多くて、活気あふれるいい雰囲気の事務所だと思います。私事ですが、昨年結婚しまして、京都での新生活を満喫させていただいています。



理事長 おめでとうございます(笑)。皆さんは休みが取りづらいとありませんか？

平田 総合技術センターでは毎週ミーティングをやっていて、仕事の状況や休みの取得状況もみんなで共有しています。職場の雰囲気もチームとして一体感があつて、仕事がいやしく休みも取りやすいです。

鈴木 同じセンターですが、機械職の直属の上司と日頃から業務内容を共有して助け合いながらやっていますし、希望した日に休みも取れています。

田村 霞ヶ浦用水は、毎月の仕事で月初めや月

とあります。今すぐ変えられなくても、質のいい効率的な仕事を行っていく上では、常に提案していくことが大事だと思いますので、ぜひ、積極的にコミュニケーションを取っていただければと思います。皆さんの今後に期待しています。

司会 続いて、仕事のやりがい、これからやってみたい仕事について教えてください。

鈴木 施工監理グループの仕事は、外部の受託業務が多いセクションで、現場によって、建設前、建設最中、管理移行時期の機械設備の試運転中など横並びで見比べられるのが勉強になってとても面白いです。今はダム建設の積算業務に携わっていることにやりがいを感じています。この経験をいざれダム管理に配属されたときに活かしていきたいと思っています。

岡村 本社人事で機構組織の根幹である採用という仕事に携われることができ非常にやりがいがあります。一方で採用の応募者がどうやったら増えるのかという問題はなかなか一筋縄ではいかないこともあり、日々、試行錯誤しながら取り組んでいるところです。

寺尾 布目ダムに勤務していた頃の話ですが、ダム防災は命に直結する重要な仕事ですので、防災操作を行っているときは特に使命感を覚えました。電気職の立場からになります



末など忙しいときは休みが取れていませんが、その時期以外で仕事に集中していないときは、比較的希望した日に休みは取れています。

司会 休みが取りづらい時期のことをもう少し詳しく教えてください。

田村 配水担当で毎月、ポンプの稼働状況や送水実績の月報を国に報告する期限が翌月の何日までと決まっています。期限内に土日を含んだり、事務処理が滞るような事態があったりすると大変で、もつと柔軟に対応できる環境があると有り難いなと思います。

理事長 皆さんから良い雰囲気の職場環境だという話が聞けて非常に安心しました。田村さんの話にもありましたが、今後、若手職員の皆さんが仕事をしてくるなかで、機構の業務に疑問をもつことがあるかと思いますが、機構にまだ染まっていない若手職員の目線から、規程や決まり事にとらわれずに、効率的に仕事を進めていくアイデアをどんどん出してみてください。長年いるとなかなかそういう感覚が薄れていき、決まり事は決まり事として受け取るようになります。正直、決まり事に納得いかなければ変えていけばいい



田村 私は機構宿舎に入居していますが、部分的には改装されていてすごく綺麗ですが、配管や見えない所は昔のままだったりするところもあつて、抜本的な改築をやっていたらいいという思いはありますね。

林 機構宿舎に関しては、老朽化が進んでいる宿舎もあつて気にする人は多いと思います。もう少し入居者に配慮した福利厚生があるとうれしいですね。

理事長 仕事にしっかりと打ち込もうと思つたら、衣・食・住のバランスがちゃんと整っていないと仕事のモチベーション維持に繋がらないので、私も福利厚生はちゃんと充実させていくことが重要だと思います。ね、機構の予算も限られているので必要な所から順次、改善していきたいですね。



ことが重要だと思つた。ね、機構の予算も限られているので必要な所から順次、改善していきたいですね。

社会人になって発見した世界観や価値観

司会 機構に入社したことで自分が変わったと思うところを教えてください。

岡村 入社以来、用地の業務で地権者や受益者の方々など、通常の業務ではあまり関わること



のない方々と話す機会があり、その際、相手によって伝わりやすい話し方を心掛けてきましたので、コミュニケーション力の上については、自分の成長に繋がったと思っています。

田村 私たちの仕事は防災に携わる仕事なので、災害情報や天気予報につ

競争したり、仕事を忘れてポーツと釣りをしたりとすぐ楽しいです。釣りという新しい趣味が見つかった良かったです。

す。ただ、堅い文面だと行政イメージが強くなりますので、若者に見てもらおうための発信方法の工夫が必要かなと思いました。世間でいうバズりそうな発信ができるといいですね。

機構組織の魅力度・認知度向上に必要なこと

田村 機構の担う業務・施設について、より大々的に広報を行っていく必要があると思います。水の日など各事務所で行うイベントを継続していく活動が必要だと思います。

寺尾 近年は、異常豪雨による洪水災害が各地で発生していて、洪水期は特に注目度の高い広報のチャンスともいえるので、この時期に重点的に効果的な広報活動を行えば、組織の認知度向上にもつながると思います。

鈴木 特に世間からの認知度が足りていないと思うので、各現場では取り組んでいます。積極的にYouTubeなどSNSで情報発信をしていくのは一番良い方法なのではないかと思っています。

寺尾 近年は、異常豪雨による洪水災害が各地で発生していて、洪水期は特に注目度の高い広報のチャンスともいえるので、この時期に重点的に効果的な広報活動を行えば、組織の認知度向上にもつながると思います。

林 私も機構を知ってもらうためには、SNS等の発信を積極的に行っていくのが有効だと思います。



寺尾 近年は、異常豪雨による洪水災害が各地で発生していて、洪水期は特に注目度の高い広報のチャンスともいえるので、この時期に重点的に効果的な広報活動を行えば、組織の認知度向上にもつながると思います。

60年の功績と将来への期待

司会 機構60年の歴史と功績から思うことについていかがですか。

林 高度経済成長が本格化して、都市部に人口と産業が集中して水需要が急増するなかで、ダムや水路等を造って水を安定的に供給してきた60年、国民生活や日本の経済成長を陰で支えてきた功績はとてつもないと思います。陰ながら支えてきてくれたからこそ、より表に立ってPRしていくことが大事だと思います。

鈴木 60年間の功績は決して小さくないのに、それが世間あまり認知されていないことがとても残念に思います。私自身も就職活動に至るまでは組織自体を知りませんでした。



岡村 設立以来、代々続く機構の文化を大切にしつつ、一方で、業務改善など変えることのできることは過去に固執することなく変えていくことが必要かと思っています。

理事長 機構60年、高度経済成長期に日本の人口が増えて水需要が高まっていく時期に、前身の公団時代から、安定的に水を供給する施設を支えてきた先輩方がいる組織であること、これは大事にしていきたいですね。水資源機構が日本になくてはならない組織だという認識を、未



来に渡って伝え続けていくためにも、誇りと愛着をもって仕事に励んでいただければと思います。

寺尾 私は、しっかりとした技術力を持つて仕事に对应したいと思えますので、日々、技術力を高めていけるような職員になりたいです。

田村 築後年数が経過した施設が増える一方、適切に耐震補強や漏水対策等を行い、様々な事態が発生しても水の供給が途絶えることがないように、職員として適切な維持・管理を続けていきたいです。

岡村 事務職の立場から、水のプロ集団として、育児休業の積極的な取得など職員が働きやすい職場にしていきたいことで、将来的に発展できる組織になっていくと思います。

平田 責任や誇りを持って、世の中から必要とされる職員であり続けたいです。

林 主体が建設から管理に移行していることもあり、働き手の減少とともに技術力の伝承が機構に一番求められている事だと思います。建

設も管理も外向けにもっと発信していくことが大事だと思います。

鈴木 水資源機構は、ダムや水路を管理している機関の中でも技術力が一番ある組織だと思っています。これからの技術力を落とさないよう、働き手を増やしていくことや、技術を維持するだけでなく、更に向上させて効率的にしていこうことも必要だと思います。

理事長 機構は今、大規模地震や気候変動に対応して適切な水管理が求められる時代に変遷しつつある中、今後も、水のプロ集団として社会的地位を維持していくために、技術をどうやって継承していくのか。また、人の確保が難しくなる状況で仕事をどう効率的に進めていくのか。この2つが大きな課題ですね。ぜひ、これからも若手職員の皆さんと議論がしたいと思います。将来、水のプロ集団として水資源機構を背負って立つ若い世代の皆さんに大いに期待しています。



私たちも歴史の生き証人

60年を職員アンケートから振り返る 水資源機構の歴史と印象に残る出来事

水資源機構60年事業の一環として、役職員を対象とした「主要出来事アンケート」を実施しました。設立から10年ごとに区切って、時代背景を紹介するとともに、アンケート結果を踏まえ、その年代の主な出来事とコメントをピックアップして紹介します。

■ 時代背景
■ 主な出来事とコメント

昭和37年～46年

GNP世界第2位の高度経済成長下、深刻化した水不足に対応するため、水系一貫の水資源開発を目的に水資源開発公団が設立され、利根川・淀川・筑後川・木曾川・吉野川の5水系が水資源開発水系に指定される。さらに、愛知用水公団を統合し、総合的な水資源管理体制を構築。

昭和37年(1962年)5月1日
水資源開発公団設立

4省にまたがっていた水関連の組織構想を一つにまとめたことこそが大きな出来事。先人の知恵、英断に敬服。

愛知用水公団の成功を受けての水資源開発公団の設立ということの重要性。

昭和39年(1964年)8月25日
利根導水路期水量水路通水開始

東京を大規模な洪水から救ったのが機構の施設です。

昭和43年(1968年)10月1日
愛知用水公団と統合(中部支社設置)

昭和63年の入社時に中部支社にいた旧愛知用水公団採用の職員から、外国人技術者や工事代金の現金決済(支払)など当時の話を聞く機会があった。



公団設立記念写真



愛知用水(通水を喜ぶ人々)



印旛沼開発(大和田機場)

昭和47年～56年

日本列島改造ブームに続く第一次石油ショックにより経済成長が後退し、省エネへの動きが強まる中、全国的な渇水が相次ぎ、水需給の長期安定化を目指した水資源開発と渇水対策の両輪で公団事業を本格的に推進。

昭和47年(1972年)6月15日
琵琶湖総合開発特別措置法制定

琵琶湖特措法は、水特法とも関連した、水源地域の保全等を行うためのスキームを定めた画期的な法律。

昭和48年(1973年)11月10日
早明浦ダム竣工

早明浦ダムはまさに「四国のいのち」。その後の四国の発展に大きく貢献。

昭和49年(1974年)5月30日
香川用水通水開始

高松渇水と早明浦ダム竣工を経て、香川用水が通水開始して香川への水の大動脈が完成。



琵琶湖開発



早明浦ダム



香川用水(東西分水工)

昭和57年～平成3年

「昭和」から「平成」へ時代が移る中、長期にわたる深刻な渇水が全国各水系で発生しており、公団では、公共投資拡大策のもと、水資源開発と渇水対策のためのダム等建設や水利用の高度化のための事業の実施とともに、総合的な水資源対策を推進。

昭和59年(1984年)10月31日
筑後大堰竣工

公団に入社して最初の現場。自分が設計・監督した施設が現在も機能していることを写真で確認でき安心。

昭和60年(1985年)6月4日
前年の用地先行取得費制度に続き、ダム建設調整費制度(いずれも事業資金を民間借入金から調達する制度)の創設

両制度の理解には公団(機構)の事業執行スキームと財務会計制度への深い理解が必要であり、故に若年の頃に大変苦労した記憶がある。

平成2年(1990年)2月6日
豊川水系を水資源開発促進法に基づく水資源開発水系に指定

平成3年(1991年)6月12日
奈良俣ダム竣工

沼田に在籍し、新旧二つの大ダム(矢沢ダム、奈良俣ダム)周辺の国や電力のダムを目のあたりにして、東京の水源地を実感。



福岡渇水時の寺内ダム



筑後大堰



豊川用水(二川チェック)



奈良俣ダム

平成4年～平成14年

地球サミットの開催、地球温暖化防止京都会議における京都議定書の採択など、環境保全への関心が高まる中、環境保全は「水づくりの原点」との観点での取組を進めた琵琶湖開発、長良川河口堰が竣工。新世紀を迎えて、公団から水資源機構へ新時代がスタート。

平成6年(1994年)8月
全国的に大渇水(11月まで)

全国的な大渇水により、みんな苦勞した。当時、事務系も含めて夜間のマスコミ対応、河川状況等の情報収集に当たったことを記憶。

いまだに語られる「平6渇水」。急いで寮に帰り、断水になる前に団子になって寮の風呂に入った若い時を思い出す。

平成7年(1995年)3月31日
長良川河口堰竣工

長良川河口堰は、全国的に注目を集めた事業。これより長良川河口堰はモニタリング段階に入り、アユやサツキマスの遡上量が毎年注目されることとなった。かつては人の目による目視調査であったが、現在はICITが活用され時代の流れを感じる。

平成10年(1998年)
日吉ダム、比奈知ダム、浦山ダム竣工

平成12年(2000年)
富郷ダム竣工

当時は、公団内で4つの重力式コンクリートダムの現場(日吉、比奈知、浦山及び富郷ダム)が建設最盛期という、公団のダム屋にとって良い時代だったと思う。

平成13年(2001年)12月19日
「特殊法人等整理合理化計画」閣議決定 独立行政法人とすること
が決定

独立行政法人化は採用内定をいただいた年に報道で知り、印象に残っている。

平成14年(2002年)11月5日
本社さいたま市に移転

本社が東京から埼玉になり驚き。



渇水で水位の下がった奈良俣ダム



長良川河口堰魚道を遡上する稚鮎

平成15年～平成24年

新世紀を迎えて、公団から水資源機構へ新時代がスタート。独立行政法人として、第1期中期計画、第2期中期計画に基づき着実に事業を推進。一方、2011年の東日本大震災では機構施設にも大きな被害が発生したが、機構の総力を結集して対応。

平成15年(2003年)10月1日
独立行政法人水資源機構、移行

機構職員として、平成15年10月1日は忘れられない。

平成16年(2004年)10月
愛知用水二期事業(大規模水路施設改築事業)竣工式

既存の水路に鋼矢板を打ち込み、水路を二連化する工事は大胆な発想。

平成17年(2005年)9月
台風第14号

(早明浦ダムの貯水率0%→100%)

利水貯水率が0%から一気に100%まで回復し渇水を脱するとともに、大量の洪水をダムに貯め込んだことにより、下流域の浸水被害の軽減に大きな効果を発揮。

平成20年(2008年)5月
徳山ダム本格運用開始

調査着手以来、約半世紀の時を経て、いよいよ徳山ダム運用開始。

平成23年(2011年)3月11日
東日本大震災発生 茨城県及び千葉県内8施設に大きな被害

平成23年(2011年)4月20日
東日本大震災で被災した霞ヶ浦用水の施設の応急復旧工事完了

被災した霞ヶ浦用水の応急復旧までのバックアップ部隊として経験した苦勞は決して忘れられない。



愛知用水(改築中の白山開水路)



徳山ダム



震災のときの災害対策本部

平成25年～令和4年

第3期中期計画から第4期中期計画へ。水資源について需要主導型からリスク管理型へ大きな転換を迎える中、激甚化する水害に的確に対応。さらに流域治水へ向けた取組を深化させ、機構の強みである一元的管理能力・培ってきた技術力等にDXを融合させ、更なる発展・向上へ。

平成26年(2014年)9月27日
御嶽山噴火(以降、牧尾ダムへの火山噴出物を含む白濁水流入に伴う放流制限等対応)

火山の噴火によるダムの水質障害という国内でも例の乏しいリスク事象に対し、水系にまたがる多くの関係者とのリスクコミュニケーションを行いつつ、刻々と変化して発生する事象に対して適時適切な判断と行動で目立った利水被害や環境影響を出さなかつたことは、機構業務の中でも歴史に残る対応といえるのではない。

平成28年(2016年)3月31日
武蔵水路改築事業完了

首都圏への水は止められないため、凄く水を通しながらの二連化工事。

平成28年(2016年)7月20日
丹生ダム建設事業の中止決定

ダム事業の検証により中止決定されたことは重要な出来事。

平成29年(2017年)7月
九州北部豪雨(線状降水帯の発生)

九州北部豪雨による危機的な状況において本社・局・寺内ダム職員一体となつて的確な判断の下、最大限の能力を発揮しダム下流の洪水被害を防いだ。

令和元年(2019年)10月11日～12月
台風第19号 利根川水系・荒川水系・木曾川水系・淀川水系の各ダムで防災操作、利根川水系の武蔵水路において内水排除を実施

近年あまり災害が発生していない関東地方で大きな影響を及ぼしたことで印象に残っている。

令和4年(2022年)3月12日
南摩ダム思川開発で定礎式を開催

歴史の長い思川開発での定礎式は感激だった。

令和4年(2022年)5月1日
水資源機構60年

我が組織が、先輩方の苦勞もあり、また様々な試練に耐えながらも60年を迎えたことは感慨深い。



武蔵水路



汚濁防止膜設置状況(牧尾ダム)



南摩ダム定礎式

利根川と霞ヶ浦に囲まれた輪中地帯を守る



利根川と霞ヶ浦に囲まれた新島地区



嫁入り舟 提供：香取市

利根川下流部の水郷

「水郷三都」と称される観光名所香取市、潮来市、鹿嶋市。中でも利根川と霞ヶ浦に囲まれた低湿地に拓かれたこの新島地区は、かつて網の目のように水路が張り巡らされ、生活・農業用水の利用や「嫁入り舟」で有名なサツパ舟による人荷の運搬など水とともに歩んできました。

徳川家による新島開拓

中世までは霞ヶ浦と外浪逆浦の間には香取海と呼ばれる入海が広がっていましたが、幾度の洪水によって運ばれてくる土砂の堆積により、沖之島と呼ばれる砂州や低湿地が形成されてきました。天正18年（一五九〇年）に徳川家はこの沖之島に進出して積極的に新田開発を行って常陸川から南



十六島図 千葉県立中央博物館大利根分館所蔵資料より



江間を通り農作業に向かう 出典：香北のあゆみ

水禍と輪中堤の成立

江戸中期になると治水方式が関東流から紀州流に変わったことや、赤堀川（利根川）が拡幅されたことにより、常陸川筋（利根川下流域）に流れ込む洪水が増えて水害が頻発するようになりました。新島地区でも増水のたびに作物が冠水被害を受けたため、村々では宅地だけでなく水

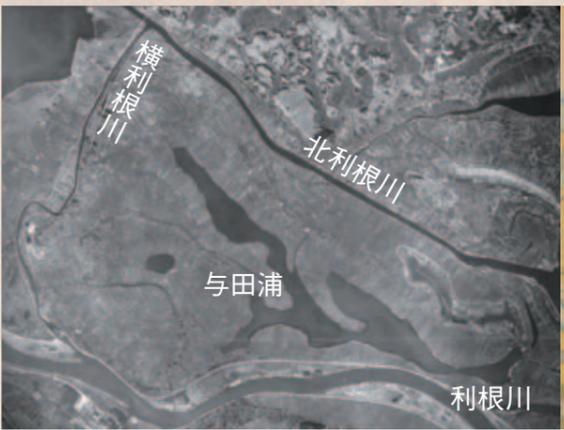
側の堆積砂州を徳川領とし、これを喜んだ家康から「新島」の地名が与えられました。利根川の東遷によって更に土砂が堆積して陸地化が進み、寛永17年（一六四〇年）までの50年間に新島地区を含む16の村が新たに開かれました。これらの地区では、盛土した場所に宅地を密集させ囲堤を築き、水田には畦を造らず、干満を利用して江間と呼ばれる水路からかんがいをしていました。

※1 宅地を囲むように築かれた堤防

田にも囲堤を築造しました。この頃、横利根川が現在の形になり、利根川、北利根川に囲まれた輪中地帯となつたと考えられています。しかし、増水毎に土砂が堆積して流れを阻んだため、洪水が囲堤を超え居住不能になるなど水禍との闘いに明け暮れる生活を強いられました。

堤防強化と排水機場

明治42年、この地区に香北水害予防組合が組織されました。過年度から開始された利根川改修工事で発生する土砂を利用し、大規模な堤防強化工事を官民協働で進捗させ昭和10年頃までに完成させました。しかし、自然排水が困難な輪中地帯では豪雨による内水氾濫が引き続き発生したため、これに対応する排水機場の建設を県に要望、その完成が待たれました。この間、昭和13年、16年の豪雨による内水氾濫では、出穂直前の水稲が冠水し収穫が皆無となる被害



北利根川引堤前の新島地区(昭和22年) 注：国土地理院の空中写真に河川名を追加



堤防強化前の様子(迅速測図・明治18年) 出典：農研機構農業環境変動研究センター

北利根川引堤と総合開発

が発生、排水機場の早期完成のため地域住民も労力奉仕で協力し、昭和17年に附洲地先に大型排水機場が完成しました。これが現在の新附洲間機場の前身にあたります。

昭和28年からは、霞ヶ浦沿岸の洪水被害の軽減を目的に北利根川の拡幅が始まりましたが、右岸の新島村側を大幅に引堤することとなったため、引堤で失われる農地の代替地として与田浦の埋立て等を行う十六島総合開発計画が実施されました。この与田浦の埋立てにより失われる調整池効果を補うため、排水機場の能力を2割増強する計画とされました。昭和30年には香北水害予防組合から香北土地改良区に設立改組、昭和37年に八筋川地先に大型排水機2基が増設され内水排除機能が強化されました。こうして、北利根川の引堤工事は昭和43年度に完成しました。



排水ポンプ(200馬力2台) 出典：香北のあゆみ

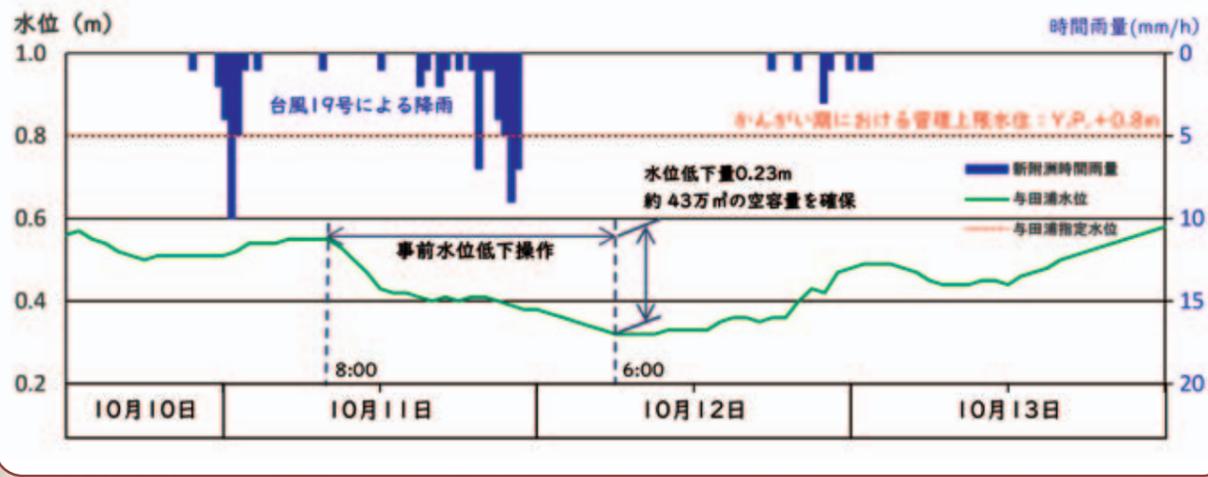


附洲排水機場(昭和17年完成) 出典：香北のあゆみ

※3 堤内地側に堤防を新築し、川幅を広げ旧堤防を撤去すること

※2 堤防で囲まれた土地

令和元年台風第19号襲来時の与田浦における事前水位低下操作



新島地区(輪中のイメージ)



※利根川と霞ヶ浦に囲まれて自然排水できないため、排水ポンプが重要であることが分かります。

この度は新附洲開門機場による内水排除は、私たちの地区における治水の要であります。この記事にも見られるとおり、本地区の開拓以降、ここに住む住民の暮らしは水とともにあり、あるときは水の恵みを受け、またあるときは水害に悩まされて今日に至っています。この水禍との闘いは、香北土地改良区の前身である香北水害予防組合の名称がその歴史を物語っていると言えるでしょう。引き続き、私たちとともに水資源機構がこの地の水害防除の一助となる取り組みを続けていただくよう、お願いいたします。



香北土地改良区理事長
椎名 弘充

感謝状贈呈式に寄せて

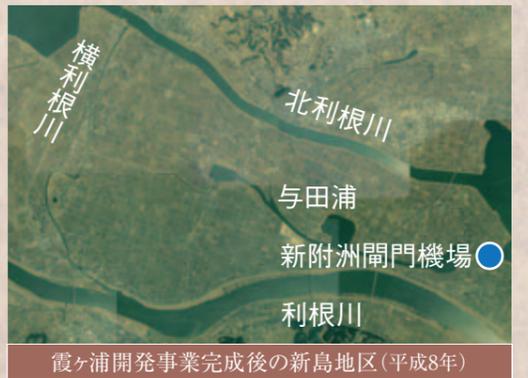
この度は新附洲開門機場による内水被害の軽減のための取り組みについて、香取市長から水資源機構に感謝状を贈呈されましたこと、誠にありがとうございます。

昭和43年から建設省によって霞ヶ浦開発事業(昭和46年に水資源開発公団が承継)が実施され、附洲機場には霞ヶ浦の水位変動に対応した揚排水機能が必要となりました。このため、これまでの附洲機場に替えて排水能力を増強した新附洲開門機場を昭和49年に完成させました。

水害の頻発・激甚化

平成3年には台風がもたらした降雨によって霞ヶ浦で戦後最高水位を記録、平成11年には日本国内における観測史上最大記録

霞ヶ浦開発と新附洲開門機場



霞ヶ浦開発事業完成後の新島地区(平成8年)



新島地区を守る新附洲開門機場



新附洲開門機場内の排水ポンプ

となる1時間降水量153ミリを佐原(現香取市)で記録しました。今後も気候変動により頻発・激甚化する豪雨が想定されることから、洪水被害を減らすための対応が各地で求められています。

事前水位低下操作

利根川下流総合管理所では、既存施設を効果的に活用する内水被害軽減に即効性のある取り組みとして、前線・台風等によるまとまった降雨が予想される際に新附洲開門機場を稼働して与田浦の水位をあらかじめ低下させて河道内貯留容量を増加させる事前水位低下操作を行っています。



香取市長から感謝状授与(左:伊藤市長・右:小島所長)

この取り組みは、関係土地改良区、関係自治体、河川管理者が連携・協力して内水被害の防除に努めるもので、平成16年から開始しこれまでに42回実施しています。与田浦の水位を最大で40センチメートル低下させるこの操作で約50万立方メートルの河道内貯留容量(空き容量)を生み出すことにより、内水被害の軽減が期待できるものです。

このことが評価され、令和4年11月21日に香取市長から感謝状をいただきました。この栄誉を励みとし、今後も地域と連携しながら防災・減災に取り組んでまいります。

祝

布目ダム管理30年を迎えて

この先もずっと地域に親しみ愛される「まほろば」ダムを目指して

関西の淀川水系木津川の支川(布目川)に位置する布目ダムは、奈良県奈良市に位置し、その流域は奈良市、天理市、宇陀市、山添村の3市1村にまたがる自然豊かな地域の中で、管理開始30年の節目を迎えました。



布目ダムが果たしてきた役割

(1) ダムの維持管理

ダムの目的を果たすため、陸上・水上の巡視によりダム、貯水池、貯水池周辺の状況を把握するとともに、定期的にダム本体・付属設備等の点検・調査を行い、必要に応じて修理・整備を行っています。また、DXの推進や中長期的な維持管理方針を定めた長寿命化計画の策定などにより、コスト削減を図りつつ、計画的な維持管理に努めています。

(2) 洪水調節の実績

平成4年の管理開始から今年度まで延べ27回の洪水調節を実施しました。平成23年からは、関係機関との調整を図り、洪水調節時に通常のダム操作よりもダムの放流量を抑え、ダムへの貯留量を増やす「特別防災操作」を実施しています。平成29年の台風21号では、管理開始以降最大の流入量となる210m³/sを記録しましたが、特別防災操作を実施し、ダムから下流6km地点の興ヶ原地点では、ダムがなかった場合の河川水位よりも約1.2m水位低減(推定値)させることができました。



に余剰分は電力会社へ売電することで管理費用の負担軽減にも役立っています。また、水力発電により、CO₂排出量の削減にも寄与しています。

(5) 貯水池水質の保全

貯水池水質保全のため、定期的な水上巡視や水質調査による監視に加え、貯留水の浅層部分を循環させる設備(浅層循環設備)を運用することにより植物プランクトンの増殖を抑制する、貯水池の水温や水質状況に応じてダムから取水する水深を調整するなどの対策を講じています。また、布目ダムの上流には、高さ約15mの副ダムが設置されており、副ダム内で流入水に含まれる栄養塩を沈殿させ、堆積した土砂を定期的に取り除くことによる水質の保全も図っています。これらの取り組みが相まって、近年の水質異常件数は減少しています。



(6) 地域との連携

布目湖は、ヘラブナやワカサギを中心として多くの釣り人に利用されているとともに、貯水池

(3) 用水の供給

管理開始以降、下流河川における流水の正常な機能の維持や水道用水の供給のための放流を継続しています。水道用水の水源として、奈良市全体の取水量のうち、布目川からの取水は約6割を占めており、布目ダムは奈良市の水がめになっているといえます。日々の貯水量、水質、降雨、ダムへの流入量、下流河川の状態を勘案しつつ、関係機関との連絡調整を経て、安定した水の供給に努めています。

(4) 発電

ダム下流に水力発電設備を設置しており、ダムからの放流水を利用して発電を行っています。発生電力量は、毎年約4,500MWh(直近10年平均)となっており、この電力は管理所で使用するとともに



祝

布目ダム管理開始30周年記念

管理開始30年を迎えたことを記念し、令和4年7月から1年間を目標として「30周年記念ダムカード」の配布を行っています。記念ダムカードの表面は、カードを見る角度によって絵柄が変わるレンチキュラー仕様を用いて、ダム建設前と現在のダムの様子の両方が楽しめるようになっています。

令和4年10月8日には「布目ダム30周年記念イベント」を開催し、関係者を含め多くの方々に来場していただきました。式典では、奈良市長(代理)、山添村長から30周年の祝辞を賜った後、一般参加者も交えて30周年を祝うくす玉開披も行いました。イベントとして、ダム堤体内部の案内、巡視船に乗って湖巡視体験などを行い、ダムへの理解を深めていただきました。

また、地元の方々による出店や奈良市観光協会と山添村のマスコットキャラクター「しまろくん」、「てんまるくん」も来場し、イベントを盛り上げてくれました。夜には、ダムの堤頂道路沿いに30周年文字入りの提灯を飾り、ダムのライトアップをするともに、山添村観光協会による竹灯籠の展示も行なわれました。



布目ダムの概要

① 洪水調節

布目川、木津川および淀川治水の一環として、ダム地点における計画流入量460m³/sのうち、310m³/sの洪水調節を行い150m³/sに低減した放流により、下流沿川の洪水被害を軽減します。

② 流水の正常な機能の維持

布目川の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図るため、下流河川に必要な流量を確保します。

③ 新規利水

奈良県奈良市、山添村の水道用水として最大1.136m³/sを取水できるよう安定的に供給します。



日本最古の歴史書「古事記」に「倭は国のまほろばたなづく青垣(あまのつら) 山籠れる倭し麗し」と唄われたこの奈良の地で、地域の皆様を始め、関係機関の多くの皆様のご協力を得て、管理開始から30周年を迎えることができました。改めて皆様へお礼申し上げます。

これまでの経験を活かして、布目ダムの使命である、洪水被害の軽減、河川環境の保全及び水道用水の供給の役割を果たせるよう適切な運営に努めていくとともに、地域に親しまれ末永く愛される布目ダムとなるよう、皆様のご理解とご協力を賜りながら、この先もずっと、「まほろば」が意味する「素晴らしい場所」「住みやすい場所」となり続けるため、よりよい施設管理を実施してまいります。



天気のみカタ

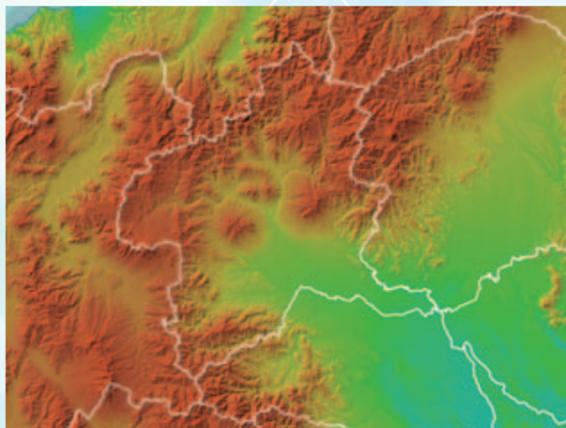
群馬の冬は豪雪とからっ風



にいむら みさと
新村 美里

気象予報士・防災士
フリーアナウンサー
群馬県出身。NHKのキャスター・リポーターとして長野・佐賀放送局に勤務。その後、2018年3月に気象予報士を取得。東京で、フリーアナウンサーとしてラジオのニュースアナウンサーやリポーターを経て、現在、NHK前橋放送局「ほっとぐんま630」の気象キャスターを担当。

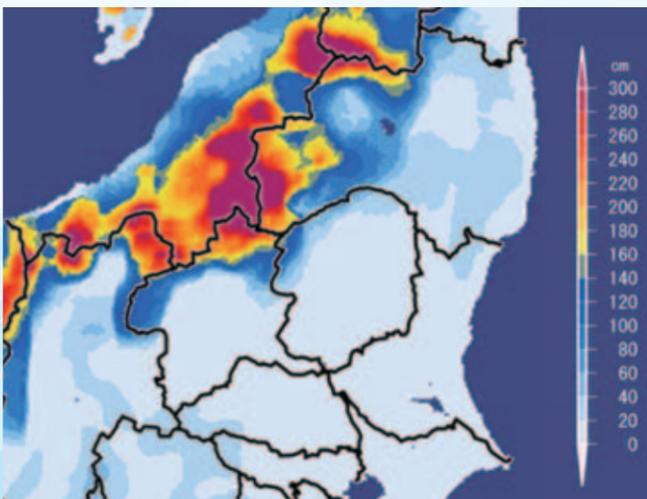
今年の6月25日、群馬県で観測された記録的な暑さがニュースになりました。伊勢崎市で40.2度、6月の観測史上で全国初の40度超えの記録です。これまで「日本一暑い」という話題になると群馬県の名前が聞



群馬県の地形 (国土地理院)

こえてくるため、群馬県は暑いところ、というイメージを持っている方も多いのではないのでしょうか。
一方で、あまり知られていないのが群馬の冬です。県外から来る人から「こんなに寒いと思っていなかった」と聞くことも多く、あまり冬のイメージが無いのかもしれない。今回は群馬県の冬についてご紹介しましょう。

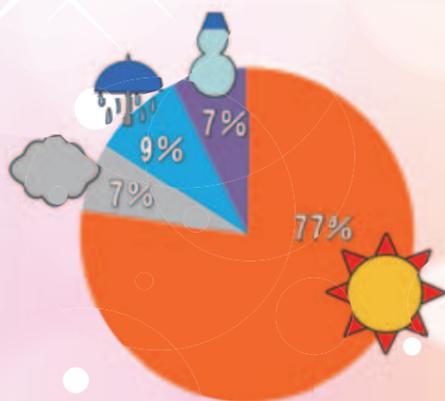
まず、群馬県はしっかりと雪が降ります。県の南部は関東平野ですが、北部のほとんどは山地です。冬場は南部と北部で大きく天気が変わり、西高東低の冬型の気圧配置の影響を受けると、北部では北陸と同様に雪の降りやすい天気が続きます。県内最北端のアメダス設置場所である藤原では、最も雪の多い平年2月の最深積雪は202cmと、豪雪地帯である北陸と並ぶほどです。



2月の平年の最深積雪 (気象庁)

のため北部には多くのスキー場があり、冬はウィンタースポーツを楽しめます。ちなみに、全国有数の温泉観光地である草津も北部に属しています。雪も降りますし、平年1月、2月は最高気温が0度前後と寒いため、冬場に来られる際はしっかりと準備をお願いします!

では、南部はどうでしょうか。前橋の平年12月のデータを見てみると、最高気温の平均は11.5度、最低気温は1.9度と氷点下になることはあまりなく、1か月の降水量はなんと23.8mmと、ほとんど雨が降りません。天気の出現率では晴れの割合は8割前後で、日差しの届く日が多くなっています。一見すると寒さとはあまり縁がないように思えますが、実際住んでみると体感温度の低さに驚かされます。



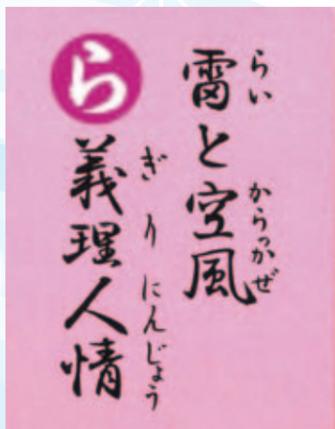
12月の前橋の天気出現率 (気象庁)

理由の一つは「からっ風」です。「上州名物、かかあ天下とからっ風」という言葉を聞いたことのある方もいるかもしれません。また、群馬県には「上毛かるた」という県民ならだれでも知っている郷土かるたがありますが、その「ら」の札では「雷と空風 義理人情」と読まれていて、大変なじみ深いものです。冬型の気圧配置の際、北陸で雪を降らせたあとに県内にやってくる吹きおろしの風は、瞬間的には風速15〜20m/sほどにもなり、風に向かって歩けなくなるほど。自転車は倒れ、外に置いてある軽いものは道路へ転がっていき、外にいれば髪はぐちゃぐちゃになります。からっ風というだけあって湿度も低く、体感温度はぐっと低くなります。風速1mで気温が1度下がる感覚と言われているため、群馬で過ごす際は実際の気温から10度くらい低い体感気温となることは覚悟しておいた方がいいでしょう。

また、「底冷え」も油断できません。晴れの日が多いということは、地面の熱がどんどん逃げる「放射冷却」が起きやすいということでもあります。朝晩と日中の気温差が10度以上になることが多く、体にこたえます。布団の暖かさも相まって、朝の起床が辛い県民は多いのではないのでしょうか (私もその一人です)。
今年の冬は平年並みか平年より寒くな



上毛かるた「ら」の札

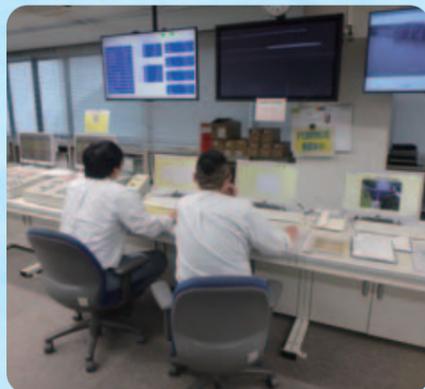


ることが予想されています。群馬はしっかりと寒いので、お越しの際は風を通しにくいコートで、寒さ対策をしっかりと行うようにしてくださいね。





発電設備の点検に同行しました。



富郷ダムのダムコン(流水などの計算システム)を勉強しました。

●参加した感想

インターンシップに参加させていただきありがとうございました。インターンシップでの実習は、とても面白くて自分の成長につながるいい体験をさせていただきました。職員の方が私が疑問に思ったことに対して、すぐに返答があり、丁寧に説明いただけたことで機構についてより深く知ることができました。マニュアルやインターンシップ報告資料の作成では、与えられた時間内で業務を行うために自分なりに工夫をしたことはとてもいい経験でした。

●水資源機構の魅力と期待

私がインターンシップを通して感じた機構の魅力は、規模の大きな仕事に関われることだと思いました。実際に早明浦ダム再生事業の工事計画のweb会議に参加させていただいたときに、国交省や電力会社の方などいろいろな方の協力がある一つの工事が行われていることを知り、とても面白い仕事だなと感じました。またDXという活動で、積極的に最新の技術を取り入れていることを知り今後の更なる発展を感じました。



先輩職員からの声

えきもと まさよし
電気通信課 浴本 征義さん

機械設備の点検やダムコンの勉強などを通じて、ダム管理への興味・関心をもってもらえたと思っています。この就業体験によって機構がスケールの大きい、社会的使命の高い重要な仕事をしていることに魅力を感じ、将来の就職先の候補の1つにあげてもらえたらいいなと思います。また、一緒に仕事できたら良いですね。

とみ さと 富郷ダム



おとたけ ひらい
乙武 飛来
香川高等専門学校
電子情報通信工学専攻

インターン事務所：池田総合管理所
(徳島県三好市)
実施期間：令和4年9月26日～30日
希望職種：電気通信職

インターンシップの内容

- ・ダムの施設管理業務の体験実習(ダムコンや放流警報設備の動かし方など)
- ・関係機関との打合せに参加
- ・設備点検、水位計記録用紙取替作業の経験



くわはら かずとし
糸原 一峻
筑波大学大学院
構造エネルギー工学専攻

インターン事務所：思川開発建設所
(栃木県鹿沼市)
実施期間：令和4年8月15日～19日
希望職種：土木職

インターンシップの内容

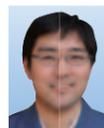
- ・工事監督業務の同行体験(南摩ダム本体、機械設備、導水路、付替道路)
- ・関連工事の調査、設計作業の実務体験
- ・環境保全対策の学びと現地パトロール体験
- ・草木ダム管理所施設見学…など

●参加した感想

今回、受け入れてくださった思川開発建設所は南摩ダムの建設を行っており、現場見学を中心とした経験を重ねることができました。期間中、発注元として監督業務をどのように行っているかを間近に見ることができ、その中で実際の業務見学のなかで、作業員の方々と円滑な業務のため互いに尊重した関係性を築いていることを感じました。また、大規模構造物の建設に伴う環境への影響についての様々な知識を得ることができました。水質や生態系に加え、周辺住民の方々への配慮も厚く、他の現場では見聞きすることのできない貴重な経験を積むことができました。

●水資源機構の魅力と期待

日本の工業の特徴である水資源について、高い経済的、社会的意義を持つ会社です。雰囲気も温かく、落ち着いて過ごすことができました。SDGsのように持続可能な社会に見直されている中、自然資源は重要になっていくので、そういった点での躍進を期待しております。



先輩職員からの声

さくらい ひろき
ダム工事課 櫻井 宏樹さん

5日間のインターンシップお疲れさまでした。ダム本体工事の監督業務では、あいにくの天候の中でしたが、ロック材料の判定や材料の品質管理試験に、非常に熱心に取り組んでいる姿が印象的でした。最終日の成果発表も良くまとまっていたね。糸原さんと一緒に仕事出来る日を、楽しみに待っています。

なん ま 南摩ダム



計測機器(帯磁率計)を使用して、ロック材料(玄武岩)の分布を判定しています。



ダムに使う材料の品質管理方法について説明を受けました。

水機構ニュース



「水機構ニュース」では、水資源機構からの最新ニュースを中心に、水にまつわるさまざまな情報をお届けします。



愛知用土地改良区創立70周年記念式典が開催されました。

愛知県の大地を潤す愛知用水。世紀の大事業である愛知用水事業の推進に努めてこられた愛知用土地改良区が昭和27年の設立より70年を迎えました。これを記念した創立70周年記念式典が令和4年10月19日に愛三文化会館（愛知県大府市）で開催され、来賓としての愛知県知事、各国会議員・県会議員、東海農政局長、水源地の王滝村村長を始め、受益市町の首長を含む約400名が参加されました。

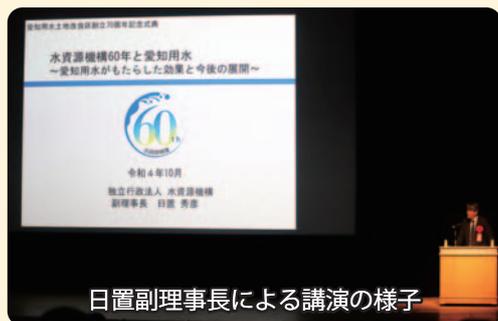
式典では、愛知用土地改良区久野^{くの}理事長の式辞、功勞者への感謝状授与の後、来賓の方々による祝辞が述べられました。水資源機構からは日置副理事長により機構60周年も踏まえた祝辞を述べました。

式典の記念講演では、（公財）愛知・豊川用水振興協会の達志保^{つじ}役員より、愛知用水事業推進や農聖と呼ばれた山崎^{のぶよし}延吉に由来する数々のエピソードが紹介されました。続いて、日置副理事長より、愛知用水を含めた機構事業がこの60年間にもたらしてきた効果、愛知用水の事業の変遷と取り組み、次世代に向け、大きな効果を上げている愛知用水を維持していくために取り組まなければならない課題と対応の方向性について講演を行いました。

式典を通して、愛知用水事業を推進してこられた先人の遺業、水源地域への感謝の気持ちを新たにしたいところです。



久野理事長の式辞



日置副理事長による講演の様子



読者モニター見学会 in 南摩ダム

10月22日(土)に栃木県鹿沼市にある思川開発建設所にて、新型コロナウイルスの影響によりしばらく実施できなかった広報誌読者モニター見学会を3年ぶりに開催しました。

建設最盛期を迎えた南摩ダムのダイナミックな工事現場で水資源機構の仕事や直に技術に触れていただいたあと、日頃より広報誌に関して意見をいただいている読者モニターの皆様と当機構の広報に関する



意見交換をさせていただきました。

機構施設は広く知られていても、それを管理する水資源機構の認知度がなかなか上がらないという悩みに対し、参加された読者モニターの皆様からは、「広報誌をもっと多くの人に見てもらおう工夫(設置場所の工夫やWEBを通じた拡散等)」、「若者はテレビよりネット情報が中心なので、SNSを通じたインパクトのある発信



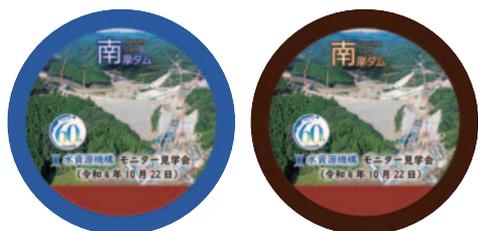
の強化」、「他組織の発信媒体(メルマガ等)で機構の技術や活躍を取り上げてもらえるような積極的な働きかけ」などの直接的な取り組みのご提案に加えて、「機構で実施するイベントを地域観光と連携した複合的目的とする仕掛け」や、「上下流交流で水の恩恵を下流域に伝える機会の拡充」など、大変有り難い率直なご意見をたくさん頂戴することができました。

今回の見学会に際し、ご参加いただきました読者モニターの皆様、並びに参加できなかった読者モニターの皆様にも事前のアンケートも含め、ご協力いただき、ありがとうございます。また、読者モニターの皆様には平素より広報誌へのアンケートにご協力いただきありがとうございます。これからも、水資源機構の行っている業務や果

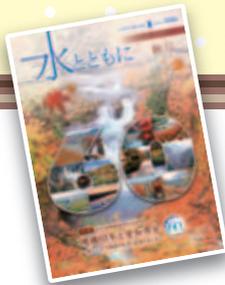
たしている役割を国民の皆様に分かりやすくお伝えすることができるよう、皆様からのご意見を参考にさせていただきながら広報誌の更なる充実を図ってまいります。



読者モニター見学会限定缶バッチ



ご参加いただいた読者モニターの皆様に限定缶バッチを配布しました。



読者の声

読者の皆様から寄せられた
「水とともに 2022・秋号」へ
ご意見・ご感想を紹介します

後世に引き継いでいきたい(井戸を掘った)先人の苦
労・努力・情熱等の功績と歴史を正確かつ、具体的に感
謝を込めて、継承することの重要性を対談を通じて強
く感じました。

(特集 水資源機構60年記念対談)

(60代・男性)

蛇口をひねると水が出てくるのが当たり前な昨今、つ
いつい忘れてしまいがちですが、そんな世の中になっ
たのもそんなに大昔のことではないということ。水が
行き渡ったから農業が発展したり、女性の暮らしぶりも
変化していったこと、まだまだこれから発信していくも
のや課題があること、とても興味深く拝読しました。

(特集 水資源機構60年記念対談)

(40代・女性)

水の天使とシャワーズを織り交ぜることで、とても親し
みを持てる記事になっているし、子どもイベントは盛り
上がったろうと想像できる。各事務所開催の夏イベ
ントにいろいろなタイトル、違いがあり、興味深い。

(トピックス 水の日・水の週間の紹介)

(50代・男性)

フォトコンテストで入賞した作品を見て、水はとつても
写真映えすると感じました。特に光やものを美しく反射
させている写真が、個人的に好きです。風景だけでは
なく、水と人や動植物との関わりを1枚の絵に表してい
る作品からも、身近にある水の大切さがひしひしと伝
わってきます。

(水とのふれあいフォトコンテスト)

(20代・男性)

主な 本号の ご紹介施設

奈良県:布目ダム
布目ダム管理30年を迎えて

P16

P20 栃木県:南摩ダム
未来の水のプロにつなぐ

P23 栃木県:南摩ダム
読者モニター見学会in 南摩ダム

P12 千葉県:新附洲閘門機場
利根川と霞ヶ浦に囲まれた輪中地帯を守る

P4 埼玉県:利根大堰
次代をつくる私たちの誓い

P21 愛媛県:富郷ダム
未来の水のプロにつなぐ

編集 後記

今年もあつという間に寒さの厳しい季節になってきました。新型コロナもだいぶ落ち着いてきておりますが、引き続き体調に気をつけてお過ごしください。

さて、本号では若手職員と理事長との60年記念座談会を行いました。若手職員の活気ある発言に将来の水のプロのあり方を魅せられました。また、特集私たちが歴史の生き証人では、楽しく機構の60年を振り返ることができ、歴史も学べます。60年特集記事は今号で最後になりますが、機構60年事業を皆様にPRすることができ、本当に良かったです。引き続き機構事業の広報活動に努めてまいります。

編集・発行 独立行政法人 水資源機構

〒330-6008 さいたま市中央区新都心11番地2

総務部広報課 TEL.048-600-6513 (直通) FAX.048-600-6510

安全で良質な水を安定して
安くお届けすること、
それが水資源機構の仕事です

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



ホームページ
<https://www.water.go.jp>



Twitter
https://twitter.com/jwa_pr



Facebook
<https://www.facebook.com/jwaPR>

ISSN 2187-8048